

学内広報

2025.2.21

no. 1591



戸塚中継所で襷をつないだ秋吉拓真さんと古川大晃さん ©日刊スポーツ



関東学生連合チームの2選手が8区と9区を疾走
箱根駅伝で東大襷リレーが実現

構内店探訪 連載総集編 キャンパス名物料理写真集

1999年創刊の広報誌『淡青』が通巻50号に

給水係を務めた陸上運動部長

箱根駅伝に出場した2選手と「給水おじさん」に聞く

淡青色の

襷リレーの舞台裏

1月3日、東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）第101回大会に、東京大学から2選手が出場。第96回大会に続き、関東学生連合に選ばれた東大のランナーが箱根路を駆けました。東大から東大へ。栄誉の襷リレーを実現した2選手に、箱根にかけた思い、本番までの道のり、当日の手ごたえ、今後の展望についてうかがいました。大会に彩りを添えた陸上運動部長の言葉もお届けします。

ギリギリだったメンバー入り

——関東学生連合チームには、本大会の出場権がない大学の選手のうち、予選会の上位16人が選ばれるわけですね。

古川 10月の予選会では、関東学生連合チームに入る目安は80～90位で、本番を走る10人に入るには70位以内が必要と踏んでいました。目標は30番内でしたが結果は60番。連合チームでは5番でした。

秋吉 自分は連合チーム内1位、全体の20位内を狙って、77位。当日の暑さに適応できず、大失敗です。ギリギリ16人枠に入りましたが、過去2回は予選会だけで選考していたので出場は無理だと思いました。でも、今回はあと2回追加選考をやって3回の合計点で決めることになり、絶対に取り返すぞ、と。11月16日の1万m記録会でトップタイムを記録し、出場を決めました。

古川 自分は1万m記録会でも最後の16km単独走（12月9日）でも振るわず、絶望的でした。過去2大会も補欠で、結局「走れなかった人」になると覚悟しました。

でも、合計点でなんとか10番に入り、走れることに。監督の方針があり、当日エントリー変更での出場となりました。

——迎えた本番。秋吉選手は最初のチェックポイントを区間1位で通過しました。

秋吉 やってやろうとは思いましたが、それほど飛ばしている感覚はなかったです。15.5kmあたりの遊行寺の登り坂がきついのは織り込み済みでしたが、その後が意外に大変。平坦と思いきや少し登っていて、後半にタイムが伸びませんでした。序盤に飛ばして疲れたのではなく、コースを少し見誤りました。目標は区間新でした。箱根路は少し特殊で、上り下りが多くて直線も長い。合格ラインがわからず、区間新なら文句なしだと思って目標にしましたが、そ

うはいきませんでした。ラスト1kmがハードでしたが、古川さんを見て元気が出て、襷を渡すときは楽しい気持ちでした。「頼みます」と言った気がします。

古川 秋吉が途中をトップで通過したと聞いて笑っちゃいました。わくわくして待っていたら笑顔で迫ってきました。晴れやかに襷を受け、勢いをもらって序盤飛ばしてしまい、まずいと思って緩めました。10km地点では高校の恩師から給水を受けました。八田先生の給水は横浜駅近くの14.7km地点です。熊本大学の学部生時代から交流があり、大学院進学を考えた頃に挨拶にも行っていた先生から力をもらおうと思って打診しました。走る自信がないと言われたので、立ち止まった状態で給水してもいいから、と頼んだんです。

箱根を走るなら東大だ！

——昔から箱根を目指していたんですか。

秋吉 東大に来た理由の一つです。高校は兵庫で、周りの多くは京大や阪大を志望しましたが、箱根を走るなら関東だ、と。勉強もできて箱根も走れる可能性がある大学といえば、東大です。高校時代は強豪には歯が立たないレベルでしたが、自分はノータンキな性格です。陸上を始めたのは高校からなので、もう少しがんばれば何とかなると思いました。大学入学時は箱根駅伝など論外でしたが、「自分ならいける」と思ってやっていたら実力が伸びてきたんです。

古川 箱根駅伝は小学校の頃から憧れでした。速く走る人がいること、周りの盛り上がり、のすごさに魅力を感じ、出るチャンスがある大学に行きたいと思いました。私立の実力校からお誘いいただきましたが、将来を考えて勉強もと親の説得を受け、広島大学を受けて落ちて、一浪でまた落ちてから熊本大学に入学。東大は大学院からです。



総合文化研究科
博士課程4年

古川大晃さん

正学部3年

秋吉拓真さん



胸の清里町は、陸上部が合宿でお世話になっている北海道知床半島の根元に位置する町。レース当日、清里町の皆さんも応援に駆けつけてくれました。



箱根路を力走する古川選手と秋吉選手。

——学業ではどんなことを？

古川 身体運動科学の研究室で追尾走を研究しています。追尾走をすると楽に感じる理由を探ってきました。今後は、集団走に拡張した研究を行います。どういう集団構造だと走りやすいのか、集団形成のメカニズムと共に探っていきます。

秋吉 自分は機械情報工学科の3年生で、研究室配属はまだです。昔からロボットやものづくりに興味がありますが、具体的にこれというのはまだないです。動いて人の役に立つものを作ることに関わりたいです。

——お互いの特徴をどう見えていますか。

古川 ノーテンキで集団の影響を受けにくいのが強みです。集団内の位置を気にする人が多いですが、彼は「ゴーイングマイウェイ」。高い目標を立て、実現に向けて行動できる人。選手としては絶対ラストで勝つという気迫が強い。自分も自信があったんですが、競ってもほぼ勝てませんでした。

秋吉 8歳も歳上で、普通なら恐れ多い差なのに、学部生とも打ち解けてくれるのが古川さんのすごさ。経験が豊富で走力も高い選手が同じ視点で話してくれるのは大きかったです。走りでは、粘り強さがすごい。追尾走の研究をしているのに、けっこう飛び出すんですよ(笑)。無謀な飛び出しをする選手の多くは必ず落ちますが、古川さんは粘る。自分も身につけたいです。

——第95回大会で箱根を走った近藤秀一さんがコーチをされているんですね。

秋吉 はい。練習メニューをたててもらい、助言をいただいています。本番の評価を聞いたら、区間5位以内なら「優」だけど7位だから「良」だと言われました(笑)。

古川 実は同年代で、熊本大学時代から交流がありました。彼が箱根を走ったときはテレビで応援しました。いろいろ話してきたので、最後にハグしてくれてうれしかったです。八田先生には、すごいことをやり遂げたと後々わかるぞと言われました。

——今後について教えてください。

古川 京都工芸繊維大学で研究員になります。もちろん競技も続けます。目標は世界一マラソンが速いPh.D.。いまはマシュー・マットという人の2時間9分49秒がPh.D.の最高記録なので、それを破りたいですね。

秋吉 いまは「東大生なのに速い」という評価ですが、「東大生なのに」を外して単にトップランナーと言わせたい。足りない部分が多いですが、一つでも上を狙います。

寄稿 八田秀雄(陸上運動部長・総合文化研究科教授)

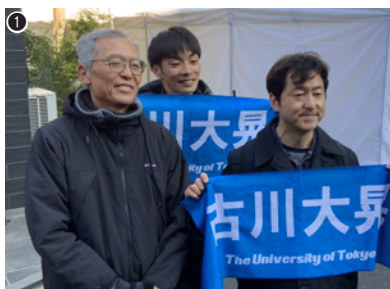
“給水係もまた” 幸せでした

2人とも出走の可能性が高くなってきた頃は、往路と復路とにそれぞれが走れば、両方応援しやすくてよいか、などと考えたりしていました。しかし結局復路の連続区間となり、襷リレーが実現して、この方がはるかによかったと思います。特に秋吉君の区間7位相当は、これまで東大生が計15人走った中での区間最高順位となる、素晴らしい快走でした。

そして戸塚中継所での41年ぶりの襷リレーの時、私は横浜駅前ですでに待機していて、周りから「東大、襷渡った」と聞き、感激しました。それから45分後、いよいよ古川君の姿が見えてきました。「古川、本当に箱根走れた!」と思ったものの、感動している暇はありません。並走を開始し給水ボトルを2つ渡しました。そして最後に激励しようとして、思わず後ろ姿に向けてガッツポーズになっていました。彼を見送ったら、ホッとしてなんともない幸福感のようなものが湧き上がりました。

この給水の様子がテレビに映っているとはわからず、その後の反響は全く予想外のことです。ただ、以前に私の授業をとったという卒業生が、私を思い出してくれたということも多かったようです。理系文系問わず前期課程の授業を担当する者として、それはうれしいことでした。

走った2人は本当によく頑張ってくれ、一生の宝になる経験だったでしょう。結果的に私にとってもそうになりました。多くの方々に応援いただきありがとうございました。



①鶴見中継所で古川選手を労った八田先生。隣は古川選手の指導教員、工藤和俊先生。②14.7km地点で古川選手を迎える。③給水! ④報道陣の取材に応じる。



●表紙のような一枚が撮りたいというリクエストに応じ、学生支援センターのテラスで8区〜9区の襷リレーの再現をしてくれた両選手!

成田 大昇
古川 大昇
八田 秀雄
工藤 和俊
近藤 秀一
秋吉 拓也
宮本 大樹
岡部 日向子

←つないだ襷の裏には選手とマネージャー18人の直筆署名が。「当日のどさくさで持ってきちゃいましたが……」(古川)。「主将だからいいんですよ!」(秋吉)。

東大構成員なら
食べなきゃソンソン!

写真で見る

キャンパスグルメ

ぶらり
構内ショップの旅

SPECIAL

2022年から本誌のコラムページで連載してきた「ぶらり構内ショップの旅」。前号で連載がひと休みとなったのを機に、これまでに登場した飲食店のなかから、お店ごとのメニューの写真をまとめて紹介します。いずれ劣らぬ東大キャンパスグルメの数々。もしまだ食べたことがないものがあつたら、迷わずお店にGo!

1557号 魚、肉、ラタトゥイユから選ぶ日替りランチ ルヴェゾンヴェール駒場	1558号 ランチコース カボ・ペリカーノの前菜サラダ	1559号 一番人気のザンギ弁当 U-gohan	1560号 海鮮丼+握りの はまスペシャル お魚倶楽部はま	1561号 ズッキーニの冷製スープ UT cafe BERTHOLLET Rouge
1562号 かとやてらす 宇和島鯛めし膳	1563号 illyの豆を使ったハニーカフェラテ カッフェヴィゴレ	1564号 人気のおはぎ 小石川植物園内売店	1565号 インフィニート・デストロイヤー サブウェイ	1566号 無添加サバの定食 食堂コマニ
1568号 キャラメル チーズケーキ 焼煎所カフェ	1569号 パスタとサラダのランチセット Bio cafe ape	1571号 ジャーマンドック トールコーヒー	1573号 日替わりのシェフズランチ 同比谷松本楼	1574号 ふわっと握られたおにぎり 鉄門カフェ
1577号 日替わりパスタと有機サラダのセット Girolomoni cafe di ape	1578号 ジャガバターとサラダがいった欧風ビーフカレー T-Lounge CREDO	1579号 うずら卵がのったマグロたたき丼 こなかふでごはん	1581号 特に人気の生姜焼き定食 やよい軒	1582号 7種野菜のサラダバスタ カッフェヴィゴレ
1583号 定番のバーネズハウスビーフバーガー Panes House	1584号 マグロがメインの海鮮丼 魚河岸本郷	1586号 KOMABA FRUITY 2024 カフェテリア	1587号 人気グラムデリの一例 プラザ憩い	1588号 グリーンカレーとムルギーカレー カフェテリア
1589号 若鶏の甘酢煮弁当 カファエグリ101	1590号 デミグラスビーフのオムライス カフェ・フォレスト	2022年の3月から始まった「ぶらり構内ショップの旅」のこれまでの連載回数は32回。そのうち、飲食店ではないお店やなくなってしまったお店などを除いた27店の料理写真をまとめて掲載しました。日替わりで出される料理など、現在は提供していない場合もちろんありません。お店の詳しい情報は、本誌バックナンバー (https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/public-relations/kouhou.html) の該当号や、右のQRコードから飛べるまとめリンクページからご覧ください。		

1999年創刊の広報誌が通巻50号に『淡青』の25年

1999年4月、全学の広報委員会に加わったのが、当時助教授の谷口先生です。この頃の広報誌といえば広報委員会が編集を担う『学内広報』。主に学生運動の動向を教職員が共有するため、1969年に生まれた冊子です。この媒体の編集が念頭にあった谷口先生ですが、第1回委員会では広報委員長の太田柳太郎先生から意外な宣言がありました。「学外向けの新広報誌を作る、と。大変そうで担当になりたくないと思っていたら、真っ先にチームに指名されたのが私で……。まだ国立大学が文部省の一機関だった時代ですが、これからは学外への広報が重要だと言われました」

当時の広報委員長は現在の広報担当執行役に近い要職。新広

報誌構想は大塚先生のリーダーシップによるものでした。半年後の創刊を託されたチームは、突貫で作業を開始。巻頭は蓮實重彦総長の対談記事となり、お相手には卒業生で前文部大臣の町村信孝さんを提案。懐徳館での取材は大塚先生が仕切りしました。大特集は、学生生活実態調査も活用する形で「東大生のいま、むかし」に。誌面には、本郷構内の時計店主や33年間駒場で働いた職員、後に総長となる佐々木毅先生も登場しています。「元指導教員だったので、すぐに話を聞けたのです。記事も自分で書きました。他の企画も同様で、各委員が身近なところから手作りで進めていました」

誌名については、東大を象徴する名が模索されました。ただ、

「赤門」だと駒場や柏が入らない、「銀杏」は同窓生組織がすでに使っている、引用する校歌もない……と決定打は出ず。残ったのが、スクールカラーの「淡青」でした。

「他にないからまあいいか、という感じでした。多忙で大変でしたが、編集を通して自分も知らなかった東大の姿を学ぶことができました」

谷口先生が専門とする政治コミュニケーションの分野では、硬派な話題を人々にどう伝えるかが問題になるそう。健康のため野菜を食べさせるには、焼肉定食にサラダをつけたり、ハンバーグに野菜を混ぜ込んだりするのと似た工夫が必要です。

「大学広報誌も事情は同じ。UTokyo Compassだけでは一



公共政策大学院教授
谷口将紀

般の人の興味は引きにくい。でも、たとえば総長が大谷翔平選手と対談して、あなたのように世界で活躍する人を育てるための指針だと言え、食いつきもよくなるでしょう」

節目の50号で予定する特集テーマ「悩める東大」を伝えると、学生時代に入学式の式辞で、当時の有馬朗人総長が、東大には金がないと話したことを思い出したという谷口先生。最後に気になる指摘もくれました。

「『淡青』は、大学のよい部分やきれいな部分ばかりを強調して、悩みや苦しみを伝えきれなかった面もあるかもしれませんね」





海と希望の学校 — 震災復興の先へ —

第36回

大気海洋研究所と社会科学研究所が取り組む地域連携プロジェクト——海をベースにローカルアイデンティティを再構築し、地域の希望となる人材の育成を目指す文理融合型の取組み——です。東日本大震災からの復興を目的に岩手県大槌町の大気海洋研究所・大槌沿岸センターを舞台に始まった活動は、多くの共感を得て各地へ波及し始めています。

東京大学と岩手県が包括連携協定を締結

理事・副学長 津田 敦



岩手県とは古い付き合いである。大学院生の時から10年以上、連休を挟んだ3週間以上を大槌町の実験所で過ごし、植物プランクトンの春季大增殖を観測し、冷水性の扱いやすい動物プランクトンを用いて実験を繰り返していた。町と県との付き合いはなかったが、早池峰山はやちねさんや五葉山ごようざんなどを巡り、良く知る地方となった。

大槌臨海研究センターが出来て52年、東京大学もすいぶん岩手県と長い付き合いをしてきた。ただ、震災前は、大学が県や町とそれほど密なお付き合いをしてきたわけではない。震災前にセンター長であった道田豊さんが、いわて海洋研究コンソーシアムなど県との付き合いを始め、そのカウンターパートが佐々木淳さんで現在の副知事である。

また、見まわしてみると、再生エネルギーの開発で生産技術研究所や未来ビジョン研究センターが、盛岡、釜石、洋野で活動し、社会科学研究所が釜石で、希望学や危機対応学を展開し、県内で広く多様な活動が展開されていることが判る。また、震災直後は、工学系研究科、農学生命科学研究科、総合博物館など多くの部局が復興事業を展開した。時間的にも



北上山地の最高峰である早池峰山、標高1917m。日本百名山、花の百名山にも選定されている

空間的にも長く広きにわたる活動は自律分散的に行われてきたが、これだけ多くの活動が行われている地域は岩手県を除いて他に例をみない。

今回の連携項目を見てみると、地域の課題対応のための学術研究の推進など5項目が並ぶが、協議の段階ではより多くの連携項目がリスト化され、一つ一つに対応する部局が割り当てられた。ここまですべて具体的に詳細に活動内容が詰められることはまれで、岩手県ふるさと振興部の方々と連携責任部局の兵藤晋所長の熱意

の賜物である。主な活動は被災地域である沿岸部であるが、エネルギーや林業といった取り組みが、内陸部に広がっていくことが計画されている。

締結式典の朝、盛岡のホテルで朝食をとっているとき、席の男性が、「今朝、玄田先生に会ったよ」と話している。当然、式典の関係者と思ったが式典にはその男性はいなかった。道田さんは式典で多くの古い友人と握手を交わし、遠野市在住の青山潤センター長は、県職員から「あなたは東大側ではなく県側の席に着くべきではないか」とからかわれていた。この連携は上手くいく、そう確信した。



前列左から、秋山聡 副学長（人文社会系研究科教授）、津田敦 理事・副学長、藤井輝夫 総長、達増拓也 岩手県知事、佐々木淳 岩手県副知事、村上宏治 岩手県ふるさと振興部長。後列左から、八木橋麻美 本部社会連携推進課長、青山潤 大気海洋研究所大槌沿岸センター長、道田豊 大気海洋研究所特任教授、兵藤晋 大気海洋研究所長、玄田有史 副学長（社会科学研究所教授）、熱海淑子 岩手県ふるさと振興部地域振興室長。



創立150周年キャンペーンのボードを手に微笑む藤井総長と達増知事（2024年12月19日、岩手県庁にて）。



「海と希望の学校」公式 X (@umitokibo)

バックナンバー→www.u-tokyo.ac.jp/ja/society/aid/sanriku.html

制作：大気海洋研究所広報戦略室（内線：66430）



UTokyo

第31回

バリアフリー最前線!

障害がある職員のお仕事拝見⑥

建物清掃班駒場分室

の巻



スピーディーで丁寧な清掃

駒場キャンパス、そして留学生が暮らすインターナショナルロッジ・駒場ロッジの清掃を担当する建物清掃班駒場分室。障害がある職員19人とそのサポートを行うコーディネーター6人からなる総勢25人のチームです。2011年に設置されてから、大量に舞い落ちるクスノキの葉を回収し、廊下や階段のシミを拭き取り、ガラスドアを磨き……と学生と教職員の皆さんが気持ち良く過ごせるキャンパスの環境作りの一端を担っています。常に心掛けているのはスピード感と丁寧さ、そして留学生が生活する施設では静穏な作業です。

一日の始まりはミーティングから。その日の担当場所や注意点などを確認し、ストレッチで身体をほぐしたら、6つの班に分かれてそれぞれの持ち場に向かいます。一番大変なのは年に一度のベランダ清掃だと話すのは入職12年目の坂本淳さん。特に秋から冬にかけては、次から次へとベランダに入り込む落ち葉との格闘です。7年目の佐野福人さんは、場所ごとに使用する掃除用具を変え、最適な方法で清掃していると言います。大変なのは酷暑が続く夏。クーラーがない場所での作業も多いため、こまめに水分を補給したり、休憩時間を少し長めにしたりといった対策をしています。

最初はやり方を覚えるのに必死でしたが、今は仕事を楽しんでいるのは7年目の室町公大さん。仕事もスムーズにこなしていますが、床のシミには苦戦することもある。繰り返しモップで拭いても落ちない場合があります。細かいシミは、ぼろ雑巾を使って丁寧にふき取っていると話すのは入職12年目の林亨樹さん。チーム制のいいところは、お互い手助けできるところだと言います。

そして全員が口を揃えて言うのが、「きれいにしてくれてありがとう」などの言葉をかけてもらうことがうれしく、やりがいにつながるということ。清掃班のみなさんをキャンパスで見かけたら、感謝の気持ちを伝えてみてください。



左から：室町公大さん、坂本淳さん、佐野福人さん、林亨樹さん。休憩時間には好きな俳優や歌手、鉄道話などで盛り上がることも。

蔵出し!
文書館The University
of Tokyo
Archives

第54回

収蔵する貴重な学内資料から
140年を超える東大の歴史の一部をご紹介します

立派な卒業証書

今回の蔵出し資料は卒業証書です（「〔文科大学哲学科卒業証書〕」F0178/01）。現在の卒業証書とは比べものにならないほど立派で、まず驚くのはその大きさです。写真では分かりにくいと思いますが、縦46.8×横64.9cmもあります。



修めた科目名と認定した担当教師の肩書の下に署名と捺印（外国人教師の場合はサイン）が並び、各分科大学長が承認し（右上部に分科大学公印）、最後に総長が承認（左上部に帝国大学公印）するというのが、明治29（1896）年卒業の姉崎正治（1873～1949）に授与されたこの卒業証書は、明治30（1897）年6月に京都帝国大学が創設されたことに伴い帝国大学から東京帝国大学と改称されましたので、「帝国大学」という名称では最後の年の卒業証書ということになります。

さて、この卒業証書には物語の続きがあります。卒業証書授与式とともに行われていたのが三四郎池の端での集合写真撮影です。当館所蔵「写真〔明治二十九年文科大学卒業記念寫眞〕」（F0025/S05/0234）に、卒業証書に署名・捺印をした担当教師、文科大学長外山正一、帝国大学総長濱尾新の姿を見ることが出来ます。そしてこの卒業証書と思われる丸めた紙を手に持つ姉崎の姿も他の卒業生とともに収められています。さらに、卒業後25年を記念した写真帖「明治廿九年文科大学卒業生 満二十五年記念寫眞帖」（F0025/S05/0248）では25年後の姉崎（この時文学部教授）他卒業生たち等の写真を見ることが出来ます。これら卒業証書、集合写真、記念写真帖は当館に集まってきた経緯がそれぞれ違うということも当館の面白いところの一つのような気がします。

当館にはこの卒業証書以外にも多くの卒業証書を所蔵しております。その内の一部はデジタル・アーカイブで画像を公開していますが、実際に手に取って見ていただくことも出来ます。立派な卒業証書、ぜひご覧ください。（主事員：村上こすえ）

東京大学文書館

ワタシのオシゴト 第225回

RELAY COLUMN

本部国際教育推進課
学生交流チーム

齋藤 愛

グローバルという舞台の裏で



オフィスの目の前にある学生交流広場にて

国際交流、グローバル、留学……。華やかな響きの裏には、無数のメール、手続き、海外機関とのやり取り、学生対応、緊急時の奔走がある。舞台を支える黒子のように、職員は日々奮闘している。スムーズに動いているように見えるプログラムほど、実は裏方の努力が詰まっているということ、国際教育推進課に就任して改めて感じている。

私は主に全学交換留学(USTEP)生の受入を担当しているが、彼らの多くは一学期であつという間に旅立つため、全てがスピード勝負だ。限られた時間の中で業務を回しつつ、学生たちが充実した東大生活を送れるよう試行錯誤する中で、自分の働き方や価値観について考えることも多い。異文化との出会いは、自分自身を映す鏡なのかもしれない。

悩んだときは、体を動かす。幼い頃から続けているクラシックバレエは言語を超えて集中できる時間なのだが、元気な見た目のせいか「サーフィンやってそうですね!」と言われたこと数知れず。大海の波に乗る感覚を、いつか味わってみたい。



大好きすぎる中央食堂の赤門ラーメン

得意ワザ: よく食べよく寝る、歩くのが速い
自分の性格: 何事も真正面から行くタイプ
次回執筆のご指名: 三村伊予さん
次回執筆との関係: 学環時代の優しい先輩
次回執筆の紹介: 皆の癒しの明るい笑い声

デジタル万華鏡 第44回

東大の多様な「学術資産」を再確認しよう

附属図書館情報サービス課
情報サービスチーム調査支援担当

齋藤 涼

電子展示のご紹介



春色梅児誉美 2編 / 為永春水作

みなさま、
令和6年度附属図書館特別
展示「華ひらく書物文化
俳諧・戯作の世界」はご覧
いただけましたか? 今年度

は人文社会系研究科・佐藤至子教授のご協力のもと、江戸期の出版文化をテーマに「連歌俳諧書集成(酒竹・竹冷・知十文庫)」や「青洲文庫」などの総合図書館で所蔵しているコレクションから、俳諧・戯作や葛屋重三郎に関連する資料などを中心に選定・展示しました。これらのコレクションは、一部が東京大学デジタルアーカイブポータル(以下DAポータル)で公開されています。ぜひご利用ください。

さて、特別展示は終了してしまいましたが、ジャパンサーチでの電子展示はまだまだ公開中です! 全資料解説付き、公開されている資料については公開先リンク付きとなっており「DAポータルを開いてみたものの、公開されている資料が多すぎてどれをみたらよいかわからない!」という方にも気軽にお楽しみいただけます。

総合図書館では、今回の電子展示で取り上げている資料以外にもバラエティに富んだ江戸期の資料を数多く公開しています。そのひとつが「板元 葛屋重三郎」(画像左下)と記載のある資料、山東京伝作『両頭筆善悪日記』(霞亭文庫)です。この資料のような貴重図書を利用するのは一定の手続きが必要ですが、DAポータルではいつでも見ることができただけでなく、配布物やポスターなどにもご利用いただけます!(対象外の資料もありますので、ご使用前にDAポータルで資料詳細ページの「メディア(画像等)利用条件」欄をご確認ください) ご活用いただけましたら幸いです。

両頭筆善悪日記 / 山東京伝作 <https://x.gd/Off2k><https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-edo2024>

インタープリターズ・第210回 バイブル

カブリ数物連携宇宙研究機構／情報学環教授 横山広美
科学技術コミュニケーション部門

デジタルメディア時代の科学信頼は

科学コミュニケーション研究の王道のひとつに、科学あるいは科学者の信頼研究がある。特に気候変動やCOVID-19の研究を通じて、科学を囲む政治性が不信を呼ぶことが論じられてきた。そしてアメリカにおいて第2次トランプ政権が生まれたいま、デジタルメディアにおけるファクトチェック機能が薄れ、科学においてもフェイクニュースや陰謀論の影響は拡大する可能性が懸念される。

最近、筆者はドイツの研究者たちと*Journal of Science Communication*でデジタルメディアの信頼と不信に関する特集を組んだ。13本の論文を通じてわかったことは、使用メディアの選択によって科学の信頼は大きく変わるという現状である。SNSばかりを使う人の科学信頼は高くはなく、オールドメディアを使う人は信頼が高いという結果だ。

研究者の信頼を保とうとすれば、なるべく安定した信頼されるオールドメディアに露出するのが戦略として望ましいかもしれない。一方で、まさにフェイクニュースに流されていく人々をなんとか科学に振り向かせるため、SNSに発信するという必要であろう。多くの研究で指摘されるのは、論争的分野の科学者の信頼が疑われる傾向だ。もちろん、誠実な研究とコミュニケーションをしている研究者がほとんどであるが、科学と政治性の切り分けを意識することが信頼を守ることになる。

特集号で興味深かったのが、気候変動で後ろ向きと評されたブラジルのボルソナロ政権時（2019年～2022年）に、SNSで気候変動に関する投稿が5倍になっても、否認等の投稿は増えなかったという研究結果だ。ブラジルでもオールドメディアの報道がしっかりと堅持されたようだ。こうした古くからのメディアも積極的にSNSにニュースを流す時代であり、クロスメディアの信頼が重要である。

それでは第1次トランプ政権時（2017年～2021年）ではどうだったかと興味を持ち、イエール大の2009年から続く気候変動科学に対する信頼調査を確認した。意外にも、ここでも人為的影響を信じない人々は3割ほどで安定しており、第1次トランプ政権の前後でもあまり変化はなかったようだ。

しかしSNSの環境は悪化している。そして、ワクチン接種などの行動は、科学信頼、科学者信頼と同時に政府への信頼が強く影響していることがわかっている。パリ協定と同時にWHOを離脱したアメリカと、世界の科学の信頼に引き続き注目したい。

科学技術インタープリター養成プログラム

ききんの「き」

寄付でつくる東大の未来

第64回

ディベロップメントオフィス
シニア・ディレクター 井上清治

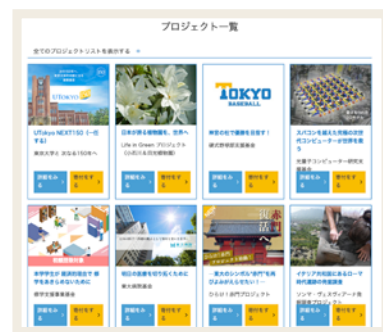
古代ローマから 量子コンピューターまで!!

東京大学基金のWebページをご覧になったことはありますか？さすが東京大学と思える非常に幅の広い教育・研究プロジェクト（特定基金）が並んでいます。寄付者の皆様にはキャッチコピー的に「古代ローマから量子コンピューターまで!!」とアピールしています。東京大学基金が2004年に設立されて以降、累計170を超えるプロジェクトが設置されてきました。

学内における東大基金の認知度向上と昨今の財政状況が相まって、ここ数年はコンスタントに20件前後のプロジェクトが新たに設置されています。2024年および2023年は22件ずつ、2022年は18件、ちなみに2014年は7件でした。やはり文系より理系のプロジェクトが多いですと訊かれることがあるのですが、確かに理系のほうが多いです。しかし、最近の傾向としては、ライフサイクルアセスメント（LCA）など、文理融合あるいは学際的といわれる、伝統的な分類だけでは当てはまらないプロジェクトが増えています。

もうひとつの傾向は「建物の改修系」の増加です。2027年に150周年を迎える東京大学の宿命かもしれませんが、総長も務めた内田祥三先生的设计による建物をはじめ、歴史的に貴重な建物が多いことは誇るべきことである一方、耐震補強など安全で充実した教育・研究環境を確保するためには大掛かりな修繕が必要になっています。ノーベル生理学・医学賞を受賞した大隈良典博士も研究していた理学部2号館や日本のコンピューターサイエンスを支える理学部7号館の修繕、航続距離世界記録を打ち立てた航空機の開発に使われた風洞や日本一の弓道場といわれる育徳堂の保全などが挙げられます。

この他にも、多彩なプロジェクトを設置しています。きっとご自分の知的好奇心を刺激するプロジェクトがあるはずです！ぜひ東京大学基金のWebページを訪ねてみてください。→ <https://utf.u-tokyo.ac.jp>



東京大学
基金はこ
ちらから

トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles) に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル（一部省略している場合があります）
1月10日	リサーチ・アドミニストレーター推進室	令和6年度リサーチ・アドミニストレーターの認定
1月10日	本部学生支援課	陸上運動部秋吉選手と古川選手が箱根駅伝に出走！
1月14日～	広報室	トンガ王国で海外移住と出生率の関係を調べる＝小西祥子 淡青色の冒険者たち卒業生編／「知の冒険者たち」 宮武外骨が集め分類しまくった絵葉書帖／「東大の宝」 遊びを学びにつなぐ「ゲーム学習論」研究／「シリーズ東大基金」『淡青』49号
1月15日	本部渉外課、工学系研究科・工学部	東京大学といすゞ自動車株式会社、合同記者会見を開催
1月15日	本部広報課	令和6年度退職教員の最終講義2月開催分のお知らせ
1月16日	本部広報課	「岐路に立つ東京大学～日本発イノベーションへの挑戦～」放送のお知らせ
1月16日	広報室	世界から運動不足をなくすために——アクティブな社会を“共創”する
1月17日	本部奨学厚生課	2025年度以降の学生支援拡充について
1月20日	情報基盤センター	最先端共同HPC基盤施設の新スパコンMiyabi運用開始披露式典を開催
1月20日	情報学環・学際情報学府	開催報告：「災害デジタルアーカイブの最前線」
1月20日	本部環境安全課	令和6年度 総長安全衛生パトロールを実施
1月22日	広報室	アメリカ大統領選挙に見る民主主義の潮流
1月23日	空間情報科学研究センター	矢部貴大客員研究員（NYU助教授）「ナイスステップな研究者」受賞
1月27日	本部学務課	SPRING GX 2025年度春入学の博士課程出願者を対象に募集
1月27日	本部学務課	BOOST NAIS 2025年春入学の博士課程出願者を対象に募集
1月27日	本部入試課	令和7（2025）年度第2次学力試験出願状況速報
1月28日	本部国際戦略課	藤井総長寄稿記事掲載のお知らせ（THE）
1月29日	本部研究倫理推進課	令和6年度研究倫理セミナーを開催
2月5日	カブリ数物連携宇宙研究機構、物性研究所、宇宙線研究所	第9回「やっぱり物理が好き！」を開催 ～物理に進んだ女子学生・院生のキャリア～
2月5日	本部入試課	令和7年度前期日程試験第1段階選抜合格者発表のお知らせ（予告）
2月6日	本部社会連携企画課	「スポーツと東京大学」イベント実施報告
2月6日	本部社会連携企画課	「スポーツと東京大学」サイドイベント実施報告



CLOSE UP 第9回「やっぱり物理が好き！」を開催（Kavli IPMU、物性研究所、宇宙線研究所）



交流会の様子。オンラインでの開催は2019年の第4回以来でした

11月23日、カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）と物性研究所、宇宙線研究所の主催により、物理学を学ぶ女子学部生及び女子大学院生の支援を目的に第9回「やっぱり物理が好き！～物理に進んだ女子学生・院生のキャリア～」をKavli IPMU 棟で開催しました。物理学を学んだ先輩たちを講師に招いてキャリアパスを示し、物理学分野の魅力を伝えるイベントです。講演会では、ニコン映像ソリューションの岩村由樹さんが「将来設

計が思い描けずきた私なりの進路の選び方」、高エネルギー加速器研究機構の山田雅子さんは「これまで測れなかったものを測れるようにする”屋」、奈良女子大学の太田直美さんは「100億光年の銀河たちを追いかけて」、本学工学系研究科の石坂香子さんは「光と電子を使った物質計測」と題してそれぞれ講演。施設見学では参加者が3研究所を見学。交流会ではお菓子を片手に講師へ質問する姿や参加者同士での交流がみられました。



CLOSE UP 令和6年度 総長安全衛生パトロールを3部局で実施（本部環境安全課）



総合研究博物館動物資料室2にて

11月28日、総合研究博物館、東洋文化研究所、経済学研究科・経済学部を対象に総長安全衛生パトロールを実施しました。本パトロールは、全学の安全衛生意識の向上を図ることを目的に、環境安全衛生管理の総括者である総長自らが安全衛生の現場に臨場するもので、平成18年度より実施しています。当

日は、総長、理事、環境安全本部長ほか関係者が各施設等の管理状況を巡視。講演会では、総長から「資料の維持保存ノウハウを全学で集約し活用することが研究力強化に繋がる」「保管物の内容と配置をデジタルプラットフォームに集積することが防火防災上重要である」等の講評がありました。



CLOSE UP 令和6年度URA認定証授与式を開催 (リサーチ・アドミニストレーター推進室)



岸執行役・副学長（前列中央）との記念撮影

令和6年度のリサーチ・アドミニストレーター（URA）認定の審査が終了し、URA認定証授与式が12月23日に安田講堂大会議室で開催されました。

リサーチ・アドミニストレーター推進室副室長を務める岸利治執行役・副学長からの挨拶では、厳しい審査を経て認定された新規認定者に対し、特色ある本学のURA制度のもと、「所属部局でご活躍いただくことはもちろん、学内のURAネットワークを活かしながら、全

学的な取組にもお力添えいただきたい」「研究支援人材の重要性がますます高まっている中、より一層のご尽力をお願いしたい」との期待が寄せられました。

平成28年度から開始した本学のURA認定制度は、今年度で9年目を迎えます。今年度は「東京大学URA」10名、「東京大学シニアURA」2名の認定がなされ、本学のURA認定者はのべ127名となりました。令和6年12月時点で70名が在籍しています。



CLOSE UP 新スパコン「Miyabi」運用開始披露式典を開催 (情報基盤センター)



新スパコンのMiyabiを指し示す朴泰祐施設長（右）と千葉滋副施設長

1月15日、柏キャンパスにおいて、情報基盤センターと筑波大学計算科学研究センターが共同運営する最先端共同HPC基盤施設の新スーパーコンピュータMiyabiの運用開始披露式典が開催されました。式典には、文部科学省研究振興局参事官の国分政秀氏を始めとする多くの来賓、本学の田浦健次朗副学長、筑波大学の重田育照副学長、及び開発に携わった多くの関係者が列席し、Miyabiの運用開始を祝いました。

朴泰祐施設長は式辞で、「筑波大学と東京大学の（間に位置する柏キャンパスという）

地の利と人の和を活かして、学術目的で国内2位のスーパーコンピュータシステムMiyabiを導入することができた」と2大学の強い連携を語りました。

式典後半には、情報基盤センターの塙敏博教授、中島研吾教授が講演を行いました。中島教授は「Miyabiの名前は計算性能が高いだけでなく、それを難なく使える、エレガントな計算科学ができるマシンということに由来する。ユーザーのGPUへの移行やAI for Scienceの試みをサポートしていきたい」と意気込みを述べました。



CLOSE UP トランスポートイノベーション研究センター開設を発表 (本部渉外課、工学系研究科・工学部)



記者会見後の藤井総長と片山会長CEO



報道陣からの質問に答える登壇者の皆さん

1月8日、いすゞ自動車株式会社からの寄付金10億円をもとに工学系研究科内に「トランスポートイノベーション研究センター」を開設することについて、安田講堂で合同記者会見を開催しました。いすゞからは片山正則会長CEO、藤森俊取締役専務執行役員、本学からは藤井輝夫総長、加藤泰浩研究科長、同センター長に就任の高橋浩之教授が登場し、約30名の記者が来場しました。

藤井総長は、創立150周年とその先を見据えて、寄付金の運用益により研究組織を運営するエンダウメントの仕組みを設けた経緯を紹介し、センターの活動が新たな知の創造へつながることへの期待を述べました。片山会

長CEOは、センターへかける期待として、持続可能な形でアカデミアの観点から社会課題解決の糸口を見つけること、未来の「運ぶ」をカタチづくること、人財を育成することを挙げ、物流の変革を牽引して「運ぶ」のイノベーションを創造し続けたいと語りました。

加藤研究科長は、社会連携・産学協創推進室を設置して共同研究を活性化してきた歩みを紹介し、恒久組織の設立に至った意義を語りました。高橋教授は2月1日に開設されるセンターの概要を説明しました。専任教授を3名採用し、各々の研究室に10名程度の学部生・院生が所属。いすゞ側からは毎年3名の技術者・研究者が派遣される予定です。

UTokyo 発表! 春のUTCC人気商品ベスト3

少しずつ春を感じる季節になってきましたね。今回は春の人気商品ベスト3をご紹介します。 **第1位→蓮香ハンドクリーム (40g) ¥890** 爽やかな香りでお出かけ先でもスベスベ。気分転換させてくれて最高です。 **第2位→本郷建物柄シャープペンシル (紺) ¥880** 本郷の象徴的建造物が小さくプリントされているベーシックデザインが人気。中高生から大人まで、毎日使いたくなるシャープペンシル。 **第3位 パールカラーゲンシリーズ オールインワンエッセンスUT (80g) ¥2,000** 洗顔後この一本でスキンケアできる美容液でお肌プルプルです。もっと紹介したい商品がいっぱいありますので、お散歩がてらUTCCにお立ち寄りください。



UTCCからのお知らせ



→オンラインストア



研究を支える知的好奇心の喚起

自然科学研究はエンターテインメントであると、自負してやまない。研究に社会実装が強く求められる今日、直近の課題を解決し役立つことが重要で、最終的には金銭に換算できる価値観が席卷している。確かにそういった分野の研究の大きさに圧倒されることがあり、自然科学研究の価値を改めて自問することになる。しかし、結論としては、すごい！、分かった！、面白い！、不思議！の一言をもらい、人々の知的好奇心を喚起させ人生を豊かにさせることにこそ研究の意義があると感じている。それらのほとんどは「レ・ミゼラブル」や「エリザベート」といったミュージカルを観劇した時の気持ちと一緒に、自然科学研究もエンターテインメントであると確信している。そのためには、殻に閉じこもり身内受けする研究とならずに、広く市井の人々に理解してもらう努力も怠ってはいけなさと自戒している。

実際、自然界にはエンターテインメント性のある材料が満ち溢れており、ニホンウナギもその一つである。産卵海域はマリアナ諸島西方にあり、わざわざ北赤道海流から黒潮に乗り換えて3000kmもの旅をする。それが分かったのは1991年のことで、かつて本学の海洋研究所所属であった白鳳丸の大きな研究成果であり、採取されたニホンウナギの仔魚の写真が*Nature*の表紙を飾った。結構すごいことである。ちなみに、ニホンウナギの英名としてのJapanese eelも表紙に記載されているが、国を表すこともある文字が本誌の表紙に出ているのも珍しい。本種は、透き通った綺麗な太平洋の海で産卵しているにもかかわらず、日本の河川に來遊すると汚れたどぶ川でも平気で生息している。とはいえ、近年は資源の減少が著しく、土用の丑の日には誰も

が鰻重の価格が気にかかる。このように話題に事欠かないエンターテインメント性ある魚類なので、柳の下にドジョウならぬウナギが二匹とばかり研究に勤しんでいる。

エンターテインメントを飾るには、より良き舞台装置が必要である。海洋研究者にとって、白鳳丸がその舞台装置なのだが、齢30年を超えエンジンが悲鳴を上げた。この段階で普通は廃船となるところであるが、船を切断して船底にあるエンジンを交換し延命することとなった。海外では研究船をちょん切り大改造することはよくあるが、日本では珍しく、本当にやるとは思わなかったと言われることがある。何事もチャレンジである。その際、旧い東大ロゴとなっている銀杏のファンネルマーク（煙突に付ける船の所属を示すマーク）は残した。現在、白鳳丸は海洋研究開発機構の所属となっているのであるが、学術研究船としての役割を後世に分かりやすく伝えるために、令和の大改造に際してもあえて旧東大ロゴを生かしている。帰港時には晴海埠頭に係留されることが多く、近くの豊洲大橋から見ると淡青色の煙突に黄色の銀杏がとても映える。舞台装置は有能で美しく、それに見合ったエンターテインメントが求められる。

木村伸吾
(大気海洋研究所)



ニューカレドニアに入港した大改造前の白鳳丸とファンネルマーク。岸壁から船首が飛び出し喫水が見えている構図は珍しい。

